

【宇治拾遺物語】

【FD教材開発 中学・塾用ワープロデータ教材】

【】(二十日はかりありて)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

二十日はかりありて、この女の居たる方に、雀すずめのいたく鳴く声しければ、「雀こそいたく鳴くなれ。ありし雀の来るにやあらん」とおもひて、出でてみれば、この雀なり。忘れず来たるこそあはれなれといふほどに、女の顔を(ア)うち見て、口より露はかりの物を落とし置くやうにして、飛びて去ぬ。女、「何にかあらん。雀の落として去ぬる物は」とて、寄りて見れば、ひさこの種をただ一つ落として置きたり。

「持て来たるやうこそあらめ」とて、取りて持ちたり。「あないみじ、雀の物得て、宝にしたまふ」とて、子ども(イ)笑入ばさはれ植えてみん」とて、植えたれば、秋になるままだ、いみじく多く生ひ広がりて、なべてのひさこにも似ず、(ウ)大きに多くなりたり。女よろこび興じて、里どなりの人にも(エ)食はせ、取れども取れども尽きもせず多かり。(宇治拾遺物語)

問一 「雀こそいたく鳴くなれ」のように、「こそ」に呼応して「なれ」と自然形になるような文語文法上の法則を何と言つか。

問二 「おもひて」を現代仮名遣いに改め、平仮名で書け。

問三 文章中に「この女」が言った言葉として、「でくくるべきところが一箇所ある。その言葉をそのまま抜き出せ。

問四 「出でてみれば」と同じ主語をもつことのできる語句を(ア)～(エ)の中から一つ選べ。

問五 「何にかあらん」の口語訳として、最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 何かしら イ だれかしら ウ なぜかしら エ どこかしら

問六 この文章のあらすじとして、最も適当なものを、次の中から選べ。

- ア 以前助けた雀がひさこの種をたくさん持ってきたので、女は喜んでそれを里の人たちみんなに分けてやった。
- イ 以前助けた雀がひさこの種を持ってきたので、女が植えてみると秋には食べきれないほど多くの実をつけた。
- ウ 以前助けた雀が大きくなひさこの種を持ってきたので、子どもたちは感心してその雀を飼ってやることにした。
- エ 以前助けた雀が口から露を落として飛び去ると、やがてそこからひさこの芽が出て、秋に多くの実をつけた。

(福岡県)

「解答」

問一 係り結び(の法則)

問二 おもいて

問三 忘れず来たるこそあはれなれ

問四 エ

問五 ア

問六 イ